



適用病害虫と使用方法

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルトリネットを含む農業の総使用回数
豆類 (種実、ただし、 だいず、あずき、 らっかせいを除く)	アブラムシ類	2000倍	100~300ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
	アブラムシ類 マメシクイガ						
	アブラムシ類 アズキノメイガ						
キャベツ	アオムシ アブラムシ類 ヨトウムシ	1000~2000倍	100~300ℓ/10a	収穫21日前まで	4回以内		4回以内
	コナガ	1000倍					
はくさい だいこん	アブラムシ類 アオムシ	1000~2000倍	100~300ℓ/10a	収穫21日前まで	3回以内		3回以内
	ナスビハムシ			収穫30日前まで			
ばれいしょ	アブラムシ類	500倍	25ℓ/10a	収穫7日前まで	4回以内		4回以内
	オオニジュウヤホシテントウ カメノコハムシ	2000倍	100~300ℓ/10a	収穫14日前まで			
てんさい	ヨトウムシ	1000~2000倍	100~300ℓ/10a	収穫14日前まで	3回以内		3回以内
		500倍	25ℓ/10a				
たまねぎ	ネギアザミウマ	1000~1500倍	100~300ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内		2回以内
小麦 未成熟とうもろこし	アブラムシ類	2000倍	60~150ℓ/10a	収穫7日前まで	1回		1回
	ヨトウムシ		100~300ℓ/10a	収穫14日前まで			
おうぎ	アブラムシ類			収穫7日前まで	3回以内		3回以内





⚠ 効果・薬害等の注意

- 本剤は凍結後、融解した際には分離することがあるので、使用に際しては容器をよく振る。
- てんさい及びばれいしょに対して少量散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を使用する。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意する。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにする。
 - ②関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努める。
- 蚕に対して長期間毒性があるので、散布された薬剤が飛散し、桑に付着するおそれのある場所では使用をさける。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。
なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

⚠ 安全使用上の注意

- 医薬用外劇物** 取扱いには十分注意する。
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせる。
本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受ける。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 本剤はのど、鼻、皮膚などを刺激する場合がありますので注意する。
- 散布の際は保護眼鏡、防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用する。また散布液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換する。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさける。
- 夏期高温時の使用をさける。

魚毒性等…水産動植物（魚類、甲殻類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用する。養殖池周辺での使用はさける。
使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

治療法…メトカルバモール製剤の投与が有効（動物実験で報告）。

保管…密栓し、直射日光をさけ、食品と区別して冷涼な所。カギをかける。

- PRTR法**
- 火災時は適切な保護具を着用し水・消火剤等で消火に努める。
 - 漏出時は、保護具を着用し布・砂等に吸収させ回収する。
 - 移送取扱いは、ていねいに行う。
 - 盗難・紛失の際は、警察に届け出る。

